

Eat Well, Live Well.



味の素株式会社

# ASV経営による企業価値向上の実現

取締役 代表執行役社長

藤江 太郎

2024年3月27日

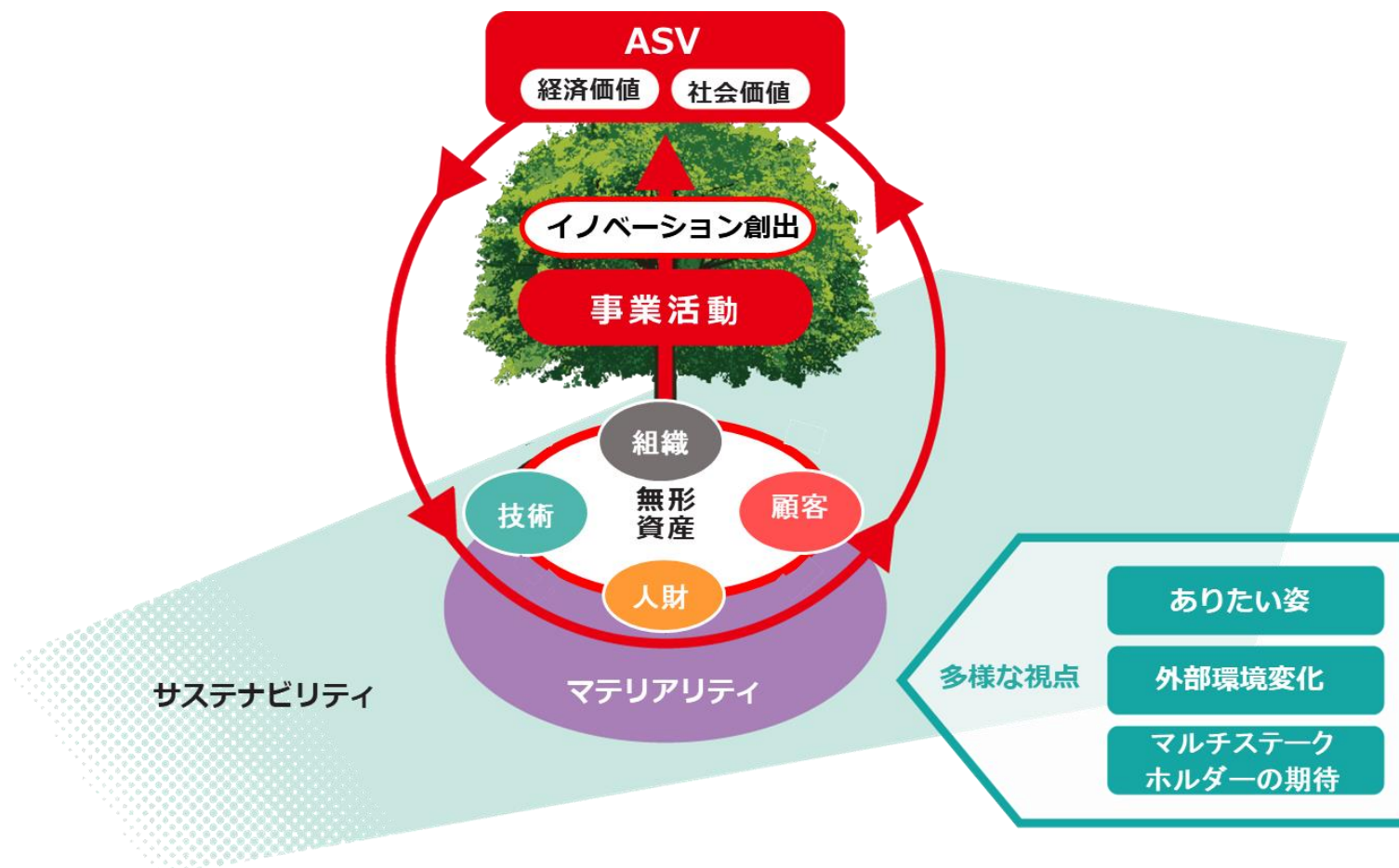
## 本日お伝えしたいこと

---

- **当社は、2050年を見据えた「味の素グループにとっての重要事項（マテリアリティ）」を踏まえ、無形資産の強化を通じてASV\*経営を進化させている。**
- **その中で、アミノサイエンス®をベースとしたポジティブインパクトを生み出す取り組みが加速している。**
- **ASV経営を実現するガバナンス体制のもとで、ネガティブインパクトの低減とポジティブインパクトの創出拡大を進め、飛躍的・継続的に企業価値を向上させていく。**

\* ASV（Ajinomoto Group Creating Shared Value）事業を通じた社会価値と経済価値の共創

# ASV価値創造のプロセス



## アミノサイエンス®で 人・社会・地球のWell-beingに貢献する

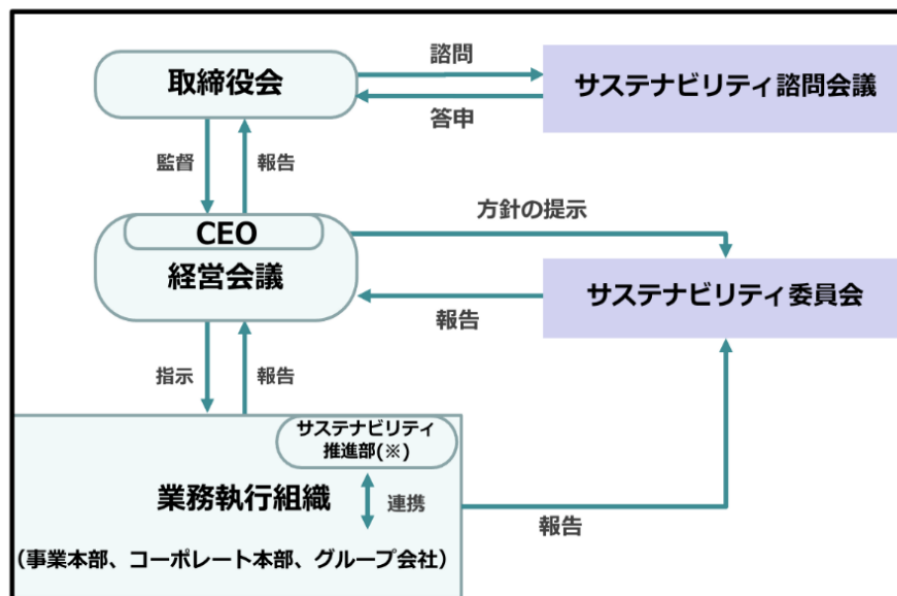


&



# ASV経営を実現するガバナンス体制

マルチステークホルダーの視点で味の素グループのサステナビリティに対するプロセス・取り組みを進めるべく、取締役会の下部機構としてサステナビリティ諮問会議を設置。



※方針・戦略の策定、事業計画へのサステナビリティ視点の提言、施策のフォロー

## 第1期諮問会議

味の素グループに対するマルチステークホルダーの期待を約2年間に渡り議論。取締役会に対し、マテリアリティとして答申を実施。

## 第2期諮問会議

マテリアリティの実装、その進捗についての開示および対話、それらを通じてステークホルダーとの関係構築を行っていくことについて、取締役会のモニタリングを強化する視点で答申を行う。

# 味の素グループにとっての重要な事項（マテリアリティ）

## 2050年を見据えたフレームワーク

味の素グループに対する期待に応えることで、持続的な企業価値向上を実現していくことを取締役会で審議し、2022年12月に承認。

① **共創力** を磨き、② **生活者視点** をもって③ **Well-being** を実現し、  
 事業活動を通じて④ **共創された価値** を還元していく

アミノサイエンス®によるWell-being

### 4. 価値共創 (ASV)

- 4.1 Living well  
健康寿命
- 4.2 Co-wellbeing  
コ・ウェルビーイング
- 4.3 Value creating solutions  
ソリューションによる  
価値創造

### 1. 共創力

- 1.1 Transformative  
innovation capability  
変革能力
- 1.2 Transparent & objective  
透明性・客観性
- 1.3 Constructive engagement  
for co-creation  
共同力



### 2. 生活者視点

- 2.1 Holistic & inclusive perspective  
ホリスティック&  
インクルーシブ視点
- 2.2 Local community perspective  
地域コミュニティ視点
- 2.3 Future generation perspective  
未来世代の視点

### 3. ウェルビーイング

- 3.1 Human wellbeing  
ヒューマン・  
ウェルビーイング
- 3.2 Community wellbeing  
コミュニティ・  
ウェルビーイング
- 3.3 Planetary wellbeing  
地球のウェルビーイング

現在の味の素グループが取り組む  
**「重要テーマ」**に整理をし  
**取り組みを加速推進**

# 現在の味の素グループが取り組む「重要テーマ」



持続可能な地球環境の実現




食を通じたウェルビーイングの実現



先端医療・予防への貢献



スマートソサエティの進化への貢献



多様な価値観・人権の尊重



経営基盤の強化

# ASV実現の道すじ

無形資産の強化をベースに、重要テーマに対する機会とリスクを踏まえ、ネガティブインパクトの低減に向けた取り組みを着実に推し進め、ポジティブインパクトを生み出す取り組みを加速させていく。

本日の主な内容

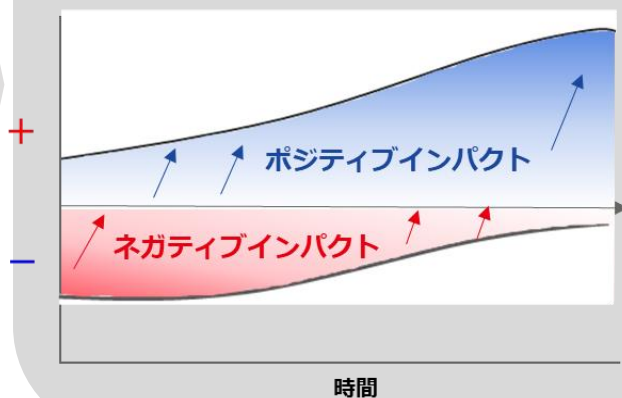
重要  
テーマ

機会・  
リスク

取り組み

ポジティブインパクトの創出

ネガティブインパクトの低減



ポジティブインパクトの最大化・  
ネガティブインパクトの最小化

ASV

社会価値

経済価値

10億人の健康寿命を延伸

50% 環境負荷を削減

健康でより豊かな暮らしへの貢献

地球環境の負荷削減・再生

今後、より対象を広く  
長期的な目線で  
アウトカムの継続的な  
進化を検討

無形資産の強化



# アウトカム「10億人の健康寿命を延伸」に対する進捗



## 味の素グループの栄養へのアプローチ



妥協なき栄養のアプローチとして  
進める取り組み（栄養コミットメント）

- おいしい減塩の実践
- 健康に役立つ製品の提供
- レシピや情報、メニューの提供
- 職場の栄養改善

うま味調味料の提供人数  
5.4億人

+

減塩製品、あるいは、たんぱく質摂取に  
役立つ製品の提供人数 3.4億人

= 8.8億人

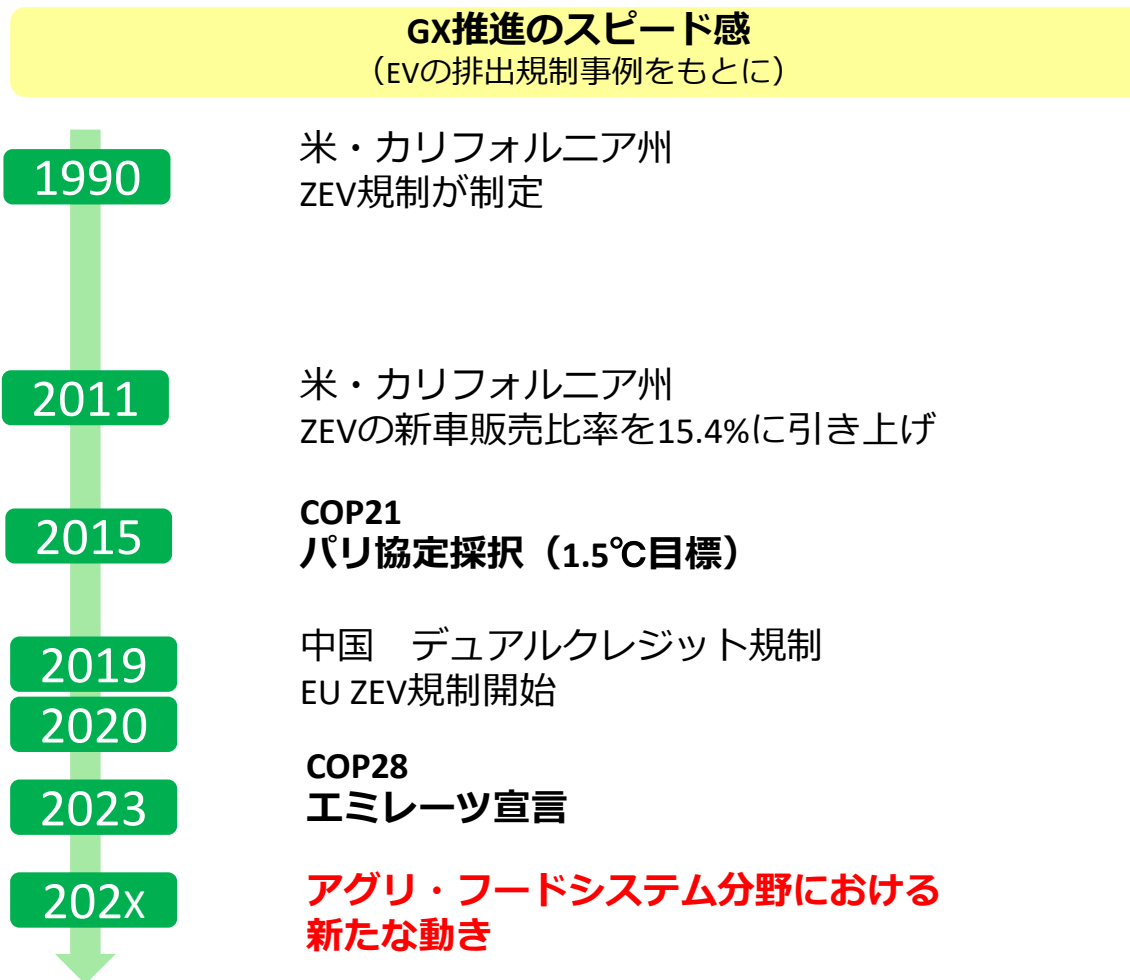
うま味を加えることで  
1日に削減できる塩分摂取量\*

	削減率(%)	量(g)
日本	12.0-21.1	1.3-2.2
米国	7.3-13.5	0.6-1.1
英国	9.1-18.6	0.5-0.9

\*塩分を含有した食品の100%（英国は90%）をうま味を活用して減塩した食品に置き換えた場合を指す。

# ポジティブインパクト創出拡大に向けた一例：GX推進

COP28において、気候変動対策と生物多様性が連携し、それらと相互に影響を与え得るものとして、持続可能なアグリ・フードシステムの構築がエミレーツ宣言で初めて重要テーマとして採択。農畜産業におけるGX推進の潮目が変わる可能性。



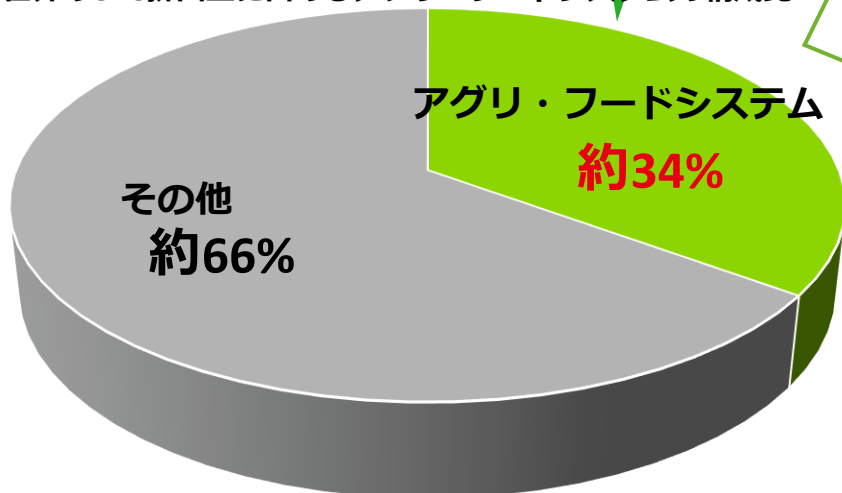
# ポジティブインパクト創出拡大に向けた一例：GX推進

社会の変化をさらなる契機の一つと捉え、アミノサイエンス®を活用した製品・サービスの提供やエコシステム共創により、ポジティブインパクトの創出拡大を目指す。

グローバルのGHG排出量 574億トン<sup>\*1</sup>

アグリ・フードシステムによるGHG排出量は  
全体の**約3割**

世界のGHG排出量に占めるアグリ・フードシステムの構成比<sup>\*2</sup>



\*1 2022年 UNEP (国連環境計画)

\*2 2015年

Crippa, M. et al., "Food systems are responsible for a third of global anthropogenic GHG emissions", Nature Food, vol. 2, 2021, pp. 198-209

製品・サービスの提供により  
グローバルのアグリ・フードシステム  
におけるGHG削減に貢献

AGRO2AGRI



バイオスティミュラント製品



Co-Product (コプロ)



AjiPro®-L

# 企業価値向上の実現に向けて



IR Day (サステナビリティ、無形資産)



SXシンポジウム (経済産業省主催)



メディア向け説明会

ステークホルダーとの対話を通じ  
サステナビリティをベースとしたASV経営の進化を図り  
企業価値向上を実現していく



The Consumer Goods Forum  
Global Summit 京都 2023



従業員との対話



G7宮崎農業大臣会合

# Eat Well, Live Well.



- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画のもととなる前提、予測を含んで記載しており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、今後様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。
- 本資料には監査を受けていない概算値を含むため、数値が変更になる可能性があります。
- アミノサイエンス®は味の素株式会社の登録商標です。

用語	意味・内容	記載ページ
アミノサイエンス®	アミノ酸のはたらきに徹底的にこだわった研究プロセスや実装化プロセスから得られる多様な素材・機能・技術・サービスの総称。また、それらを社会課題の解決やWell-beingの貢献につなげる、味の素グループ独自の科学的アプローチ。	2,4,11
マテリアリティ	味の素グループにとっての重要な事項	2,3,5,6
重要テーマ	現在の味の素グループが取り組む重要テーマ	6,7,8,10
スマートソサエティ	企業・行政・生活者等がネットワークでつながり、社会課題を解決していく社会のこと。	7
アウトカム	味の素グループが中期的な時間軸で、社会に対して創出する価値	8,9
ポジティブインパクト	味の素グループが長期的な時間軸で、社会に対して創出するポジティブな影響	2,8,10,11
ネガティブインパクト	事業を通じて自社バリューチェーンで発生する負の影響	2,8
COP28	国連気候変動枠組条約 第28回締約国会議	10
GX	グリーントランスフォーメーション。化石燃料をできるだけ使わず、クリーンなエネルギーを活用していくための変革やその実現に向けた活動のこと。	10,11
EV	Electric Vehicle。電気自動車。	10
ZEV	Zero Emission Vehicle（ゼロ・エミッション・ビークル）。走行時に二酸化炭素等の排出ガスを出さない電気自動車（EV）や燃料電池自動車（FCV）、プラグインハイブリッド自動車（PHV）のこと。	10
GHG	Greenhouse Gas。二酸化炭素やメタンなど、大気中の熱を吸収する性質のあるガスのこと。	11
ウェルビーイング(Well-being)	健康で幸せな状態。	4,6,7